



福岡工業大学附属城東高等学校				
〒811-0214 福岡県福岡市東区和白東3-30-1 ☎092-606-0724		森 友幸	高山 奨悟	山田 晴久先生
活動団体	環境役員会	活動人数	2070人	
主な活動時間	休み時間や放課後	担当教諭	山田 晴久	
最終審査会発表生徒	もりともゆき 森 友幸(2年) たかやま しょうご 高山 奨悟(2年)			

全校生徒2100人で取り組む環境保護活動

【活動内容】

福岡工業大学附属城東高等学校の全校生徒2070人が一丸となって実施している環境活動について紹介します。

はじめにごみの22分別です。22分別とは、全校生徒の協力のもと、ごみを可燃物、不燃物、ペットボトル、ペットボトルキャップ、スチール缶、アルミ缶など細かく分別しています。これにより生徒一人一人の環境改善意識の向上につながっています。

二つ目にごみの計量についてです。ごみをそのままごみ置き場に持っていくのではなく、一度計量してから捨てに行きます。計量することで、各クラスから出るごみの量を把握できるのはもちろんのこと、持ってくるごみの中にリサイクルできるものが入っていれば、再利用するようにしています。本校では購買部で買った弁当の殻は返却すると、10円がキャッシュバックされる仕組みになっています。こういったものも取り出して、返却するように促しています。時間と手間がかかりますが、その積み重ねがごみ減量につながり、分別とリサイクルを促進し、無駄なくごみを捨てる事ができています。



三つ目が全校生徒で行っているボランティア活動です。私たちが主に行っている活動は、立花山清掃登山、和白干潟清掃活動です。立花山清掃登山では、立花山に登るまでの道のりに落ちているごみを拾います。和白干潟清掃活動では、和白干潟に流れ着くプラスチックごみや粗大ごみの回収、そして秋から冬にかけて大量発生する青さの除去に取り組んでいます。毎回100人前後が参加してごみの量は可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみ合わせて400kg以上の回収を行っています。去年の参加人数は、888人でした。校外で行っているボランティア活動はすっかり定着し、年々参加者が増加しています。個人参加のほかに、部活動の一環として全員で参加する部も多くなっています。そうした中、参加者が活動場所まで移動する間の安全確保や自転車や歩行者の通行の妨げにならないようにする必要がでてきました。そこで、環境役員やボランティア部員が協力して、信号を渡る際の誘導や歩道を歩く時の自転車や歩行者の情報を知らせて、指示を出すことを徹底しました。その甲斐もあって、今まで事故等は一度も発生していません。

最後に美化チェックについてです。美化チェックは、毎週金曜日の放課後、クラスの環境委員と環境役員が



和白干潟清掃活動



<内容>

「和白干潟を守る会」と協力し、干潟の生態系の保護に取り組む。

美化チェックとは

- ・生徒会環境役員と各クラスの環境委員で毎週チェック
- ・5段階で評価します



集まり、クラス、トイレなどを見てまわり点数をつけランキングにします。美化チェックの日になると、1位を取るためにクラスの環境委員を中心としてより掃除に

力が入ります。美化チェックで評価するところは、机やいすの並び、黒板の消し方や溝の清掃状態、清掃用具がきちんと整理整頓されているか、個人のロッカーの整理状態、ゴミ箱のゴミが捨ててあるか、床の清掃ができていないか等、54クラスとトイレをチェックしています。優秀なクラスは全校集会で表彰しています。

このような環境保護にかかわる活動を本校では12年前から実施してきました。最初は意図が伝わらず、環境保護とはほど遠いものがありましたが、現在ではすっかり定着して全校生徒が一丸となって協力しながら活動を行っています。今後さらに生徒たちの環境に対する意識が向上するよう精いっぱい頑張っていきたいと思います。

【成果・実績】

福岡県環境教育学会ジュニアセッション 奨励賞

【目標・今後の計画】

計量したデータを利用して更なるごみの減量につなげたり、現状の問題を全校生徒で共有して考える等、私たちが日ごろから当たり前に環境問題について考える活動に取り組みます。

●活動にあたり創意工夫したこと

ごみ分別の徹底とボランティア活動時の安全確保を工夫しました。特に1年生は分別の方法がわからず、再生紙を可燃物と一緒にしたり、電池を不燃物として捨てるがよくありました。環境役員で話し合った結果、まず分別の目的と方法を知ってもらう必要があると考え、環境委員会を開いて全校生徒に理解を求めました。また、可燃物を計量に来る人に分別促進を呼びかけたりプリントを配布したりして改善に努めました。現在は分別がきちんとできています。

●活動の際に苦労したこと

外部の方には分別が知られておらず、部活動の対外試合やイベントの際に缶やペットボトル等と一緒に可燃物の置き場に捨てられ、その都度、環境役員が分別作業をしてきました。そこで扉の前に分別を呼びかける張り紙を貼ったほか、環境教育担当の先生から部活動顧問会議や職員朝礼で呼びかけてもらうなどの策を講じました。現在でも時々、計量の記録がない可燃物が捨てられたり、袋をしっかりと縛っていないためカラスがごみを散乱させる等の問題があります。少しずつ問題解決を図り、全校生徒の協力のもと、学校の環境向上に努めたいです

活動の環^わを広げよう 出場者からの提言

◎本校の行っている活動の改善点や取り入れたいことなど、多くの知識を得ることができました。どの学校も環境問題に全力で向き合っており、自分たちも負けてはいられないと思いました。今後は学園全体や地域にも呼びかけて活動の環を広げていきたいと思いました。(森 友幸・2年)

◎他校の発表を聞いて内容はもちろんのこと、伝えることの難しさや工夫について多くのことを学びました。本校での活動も多くの方々に知っていただき、たくさんのご助言をいただけたことに心より感謝しています。今後も全校生徒一丸となってより良い活動を行います。(高山 奨悟・2年)